
金魚姫*

安藤やや

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

金魚姫＊

【Nコード】

N6922H

【作者名】

安藤やや

【あらすじ】

都市伝説のような金魚姫がアレを食い尽くす。

（前書き）

残酷な所があるのでご注意を。

金魚が好きな人は見ないで下さい。

意味不明のところがあるかもしれません。

「金魚姫の好きな食べ物って何だか知ってる？」

「は？」

金魚姫自体知らないし。」

「すっごく綺麗なお姫様。

金魚の色の用に赤い目をしてるんだよ。」

「ふん。」

「そんなお姫様の好きな食べ物は・・・人間ッ！
・・・あなた、美味しそうだね。」

「ヒッ・・・！」

グシャ！

ムシャッ！

「人間の躍り食いッ♪」

目玉焼きをほおぼる。

食パンをかじる。

朝のニュース。

「少女が一人行方不明になりました。

現在身元を確認中です。

なお、この少女を見かけた方はこちらの電話番号にお電話下さい。」

テレビ画面に女の子のピースで映っている写真が映し出される。

そして、下の方に電話番号が映し出される。

「やーね。

怖いわ。

この子、早く見つかるの良いけど……。」

おかあさんはこんなコトをいいつつ、私の目玉焼きがのっていた空のお皿を持って行く。

私は鞆を持ち上げ肩にかける。

「見つかりっこないと思うけど?。」

靴を履く。

「え?」

何か言った?」

「何でもない。」

玄関の扉を開ける。

「じゃ行ってきます。」

外に出て、太陽を見上げる。

「だって、その女の子・・・私の胃の中だし。」

クスッ・・・

いつものように学校に行く。

授業をいつものように受ける。

暇。。。。

体育の時間になり着替える。

今日は体育館でドッジボールだ。

ボールが交互に飛び交う。

汗が流れる。

うつ・・・あつい・・・

意識がもうろうとする。

バンツツ！！！！

「ツ・・・」

ボールが顔面直撃。

「つてえな！

この野郎！！！！」

ジンジンする顔。

辺りを見回すとみんなが後ずさりをする。

・・・何で？

みんな、恐怖の面持ちだ。

「目が・・・

真っ赤だ・・・よ？」

一人の女子からの震えた声。

「ヘッ・・・？」

ヤバイ・・・

バレル・・・

ガシャアアアンツ・・・！

体育館中の窓ガラスが割れ、飛び散る。

みんなに破片が刺さる。

あたしにだけ刺さらない。

・・・。

「はあ、、、
びっくりした・・・」

静かな体育館。

「あーあ・・・
どうしよう・・・コレ」

まあ、いいや。

まずそうなヤツもいるけど、食べよう。

全部。。。

川に飛び込んだ。

・・・とうぶんの間はもう人間いらないや。

（後書き）

最後まで読んでいただきありがとうございます。
初投稿なので、いたらない点が多々あると思います。
また小説書くので、見てやってください。

安藤。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6922h/>

金魚姫*

2010年11月17日03時08分発行